

Casa del Quartiere Via Baltea トリノの地区の家（ヴィア・バルテア）

印刷工場を改修してつくられた、文化的活動や交流、カフェなど多様な活動の場

【キーワード】

〔施設種別〕 □高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 □住宅（住宅型ホテル） ■地区の家，他
〔運営主体〕 □市区町村 □法人 □NPO □個人 ■社会的協同組合
〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 □集落
〔建物状況〕 □新築 □増築 ■改修 □一部改修 □既存
〔対象者〕 □高齢者 □障がい者 □子ども ■ファミリー ■多世代 ■移民



カフェレストランの内観

トリノ北部エリアに立地する地区の家。商業的な収入を得ながら、住民に文化的活動や交流、飲食の場を提供し、また移民への職業訓練等の支援を行う複合的な社会事業の拠点である。中庭を囲む元印刷工場の建物に、各種の活動室や工場など多様な場を設けられ、地域住民も参加して場づくりがなされている。中庭は地域の人々が自由に入出し、滞在できる空間となっており、まちの人々が集まる地域の交流拠点である。

視察月日 11月6日

記録担当者 山田あすか

案内者 アンドレア・ボッコ氏(トリノ工科大学教授、社会的協同組合スミズーラ代表)
ラッラ氏(ヴィア・バルテア事務所代表)
多木陽介氏(通訳)

1. トリノ北部エリアと周辺地区の概要

トリノ駅西側からローマ通りをトラムで北上すると、サン・ジョヴァンニ・バッティスタ大聖堂 Cattedrale di San Giovanni Battista, パラティーナ門跡 Porta Palatina を経て、ポルタ・パラッツォ Porta Palazzo (城門広場) に至る(写真1)。この広場で毎朝開かれる朝市はイタリアで最も大きく、ヨーロッパでも最大級の規模を誇る。食品だけでなく、衣類や生活雑貨など、様々な屋台が建つ。トリノには朝市の文化があり、各地区に朝市で朝市が開かれている(写真2~4)。

トリノの城壁外エリアは19世紀以降に発展を遂げた。



写真1 トリノ市街地 (googlemap より)

トリノ駅から北上すると、ローマ時代の門と城壁の跡がある。ポルタ・パラッツォ Porta Palazzo (城門広場) は、城壁跡につくられた広場で、トリノ旧市街地の北の玄関口である。さらに北上すると、ドーラ・リパリア川を渡り、トリノ市北部エリアに入る。



写真2～4 ポルタ・パラッツォ広場の朝市



写真5 バッリエーラ・ディ・ミラノ地区の散策
アンドレア・ボッコ教授にお話を伺いながら地区を散策する。

ポルタ・パラッツォ広場からさらに北上すると、ドーラ・リパリア川(北イタリアを貫くポー川に注ぐ支流)を渡り、その先がトリノ北部地区である。この川はかつてしばしば氾濫を繰り返しており、地形的に不利な条件であった。こうした地理的特徴もあいまって、この北部エリアの居住者は低所得者層が多くを占める。トリノには全部で44箇所の地域があり、この北部地域はイタリア全土(南)方向、例えばミラノ方向へつながる入り口／ゲートの役割を果たしていた。このため、エリアの名をBarriera di Milano ミラノの障壁／境界／関所という。

鉄道ができたことで、トリノにも大きな工場がたくさんでき、工場で働く人口も流入してまちは工業都市として発展した。しかし、今ではそうした工場はほとんどがなくなった。かつては、このバッリエーラ・ディ・ミラノ Barriera di Mirano 地区は1906年頃(第一次世界大戦より少し前)に工業エリアとして開発された、2,000万平米の規模を誇る工場地域であった。例えばこの地域にあった大きなFIAT工場では船や工場で使うモーターをつくっており、多くの労働者を抱えていた。こうした労働者には、もともとは山間部、田舎の地域から流れ込んで来るケースが多かったが、1950～60年代にはイタリア南部からの移住が、またそれに遅れること20～30年ほどかけて、次第に国外からの移民も増えた。今では50～60年代に移住してきた人々が定年退職を迎える時期となっている。今後はこうした人々の高齢化への対応も大きな課題となることが予測される。

2. バッリエーラ・ディ・ミラノ地区マーケットでの活動

1) 地区と近隣マーケットの概要

この周辺地域の建物は、だいたい20世紀前半につくられた(写真6)。この地域はイタリア南部からの移民が多いため、トリノに小さな南イタリアの街が移ってきたような場所である。そこに、さらに移民が暮らすようになっており、トリノの中でも最も外国人の割合が多い。南イタリアの職人の店や、細い路地にはアフリカからの

移民が開いた工房, 中国人のお店とエリア全体がエスニックな様相を多分に持っている。また, こうした流入者の年代が影響して, トリノの中では比較的の平均年齢が低いエリアである。また, 低所得者が多く暮らす地域でもある (写真7)。

トリノでは地区ごとに朝市がたつ文化があるが, バッリエーラ・ディ・ミラノ地区では地区東側にあるフォーロニ広場 Area Mercatale Foroni で朝市が開催されている (写真8)。この広場の公式な名称はフォーロニ広場であるが (写真9), エリアマップにはPIAZZETTA CERIGNOLA (チェリニョーラ広場) と記されている (写真10)。これは, このまちの人々がこの広場を呼ぶ名前で, この地域に南イタリアのチェリニョーラ^{注1)} から移住してきた人々が多いことに由来し, 故郷に根ざした祭りも毎年この広場で行われている。

2) マーケットでの社会的活動

Foroniの朝市でも, 衣料品, 生活雑貨, 食料品など多様な品物を扱う屋台が軒を連ねている (写真11, 12)。広場に面して肉屋やパン・菓子屋などの固定店舗も数多く並んでいる。

ここ Foroni 朝市では, 2008年の経済危機を受けて2013年に「fa bene (ファ・ベネ, 「いいね」の意味)」というプロジェクトが立ち上がった¹⁾。これは, 経済危機による生活状況の悪化への影響を受けて, 商業に関わ



写真6 バッリエーラ・ディ・ミラノ地区①
古い建物が改修されながら使われている



写真7 バッリエーラ・ディ・ミラノ地区②
バルコニーに, プラスチックのカーテンがかけられている。トリノでは, こうした使い方を禁止しており, 罰金を取られることになっているのだが, ここの住民は意に介さない。貧しい人が多く, お金がないので, 警察も実際には罰金を取る事ができないためである。



写真8 フォローニ広場 Market Square Foroni
広場と歩行者道路に広がる朝市。



写真9 フォローニ FORONI 歩行者エリア
広場 (歩行者ゾーン) の入り口を示す路上標示。車両の進入がしにくいように石が置かれている。

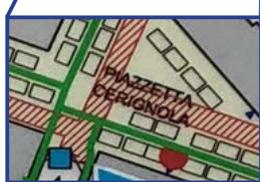


写真 10 フォローニ広場の
エリアマップ
公式には Foroni だが、マ
ップ上では異なる名前が記
されている

注1) プッリャ州フォッジャ県, イタリア半島の“く
るぶし”にあたる位置にある基礎自治体

る人々や市民, ボランティア, ソーシャルワーカー, 要
支援者らの実践的な対応として発足したプロジェクト
で, 組織化されたお裾分けのような取り組みである。実
際にうまく機能するまでには試行錯誤があったが, 現在
は, S-nodi 推進委員会, Associazione di Promozione
Sociale (社会振興組合) Fa bene Community など9つ
の社会的協同組合, 組合, 財団等によって安定的に運営
されている。

その仕組みは, 以下の通りである。まず, この朝市で
買い物をする人々が自分が必要なよりも少し余分に品物
を買ってお金を支払う。そして, 差分の食料品などが朝
市の終了後に集められ, それらの品物は仕分けられて,
登録されている貧しい人々の家にプロジェクトの参加メ
ンバーがあとで配達する。この fa bene に参加している
店は, その旨が書かれたチラシを店頭に掲げている (写
真 13)。キリスト教の歴史のなかで, 寄付が日常的な行
為であることもこうした活動の背景にあると推察される。



写真 11 Foroni 朝市の街路部分の様子
衣料品, 生活雑貨の屋台が並んでいる。



写真 12 Foroni 朝市の広場部分
野菜や魚介類など, 新鮮な食料品の屋台が並んでいる。

3. 地区の家ヴィア・バルテア Via Baltea

1) ヴィア・バルテア開設の経緯

サンサルバリオ地区の家 (→p.86) の開設, 運営後に,
公的資金や公共施設の低廉価格での貸与によらずに, そ
れゆえに自由度高く, コーポラティーヴァ・スミズーラ



写真 13 fa bene のチラシを店頭に掲げた屋台
AMICO DI fa bene (fa bene の朋友)。「Dona qui parte della tua
spesa! (あなたの食料品の一部をここに寄付してください!)」

1) fa bene, <<https://www.fabene.org/>>

(Sumisura sc-Resources for the Environment and the City) によって自分たちが理想とする「地区の家」のあり方を再度模索しようと立ち上げられた。開設は2014年である。サンサルバリオ地区では、地区の家をはじめとする地区改善が功を奏し地区の住環境は改善したが、トリノ駅からも近い市街地中心部にあったために地域住民以外の外的要因が運営に影響し必ずしも地域独自のニーズにだけ対応することが難しい状況や、地価が上がって移民などの貧しい人々がかえって暮らしにくくなってしまおうという状況もあった。このため、スミズーラはトリノ市の中心部を離れ、社会的に困難のある地域に入ってその地域ならではの課題に向き合うための拠点をつくろうと考えたのである。

この複合拠点の正式名称は、Via Baltea 3-Laboratori di Barriera (バルテア通り3, バリエーラの研究所) という。ソーシャルなラボであり、社会的実験を行う場であるという意味を込めた名前だが、この立地に根ざした場所という親しみを込めて、ヴィア・バルテアと呼ばれている (写真14～16)。

もともとは印刷工場であった建物群で、それを改修して社会的機能を持たせるという、建物とまちの再生の挑戦である。ここには、この地域のための社会的サービス、この地域での生活を支えるための複数の活動の拠点がある (写真17)。こうした多様な機能があることで、この地域の人たちが集い、そこに楽しい出会いがあるようにとのねらいで活動をしている。

2) ヴィア・バルテアの運営

この地区の家は、コーポラティーヴァ・スミズーラが



写真14 ヴィア・バルテア付近 (Googlemap より)

2) Via Baltea, <<https://www.viabaltea.it/>>



写真15 バルテア通り



写真16 ヴィア・バルテア外観

本印刷工場の改修。もともと搬出入のために広く取られた入り口がまちとの幅広い接点となっている。

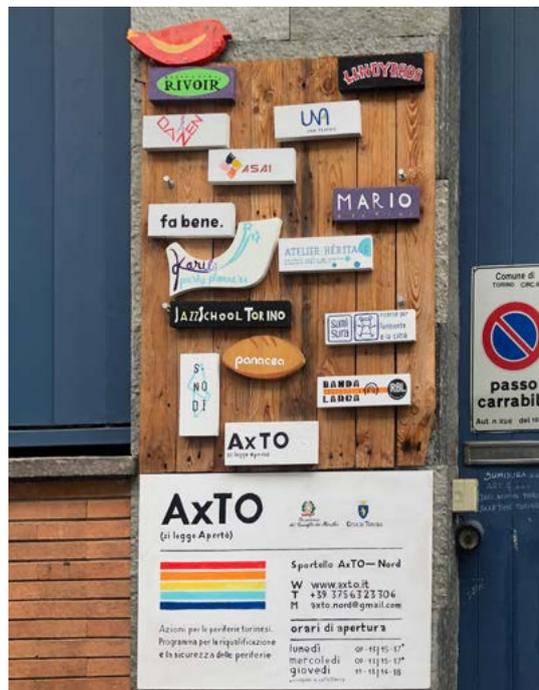


写真17 入り口に掲げられた看板

ここで提供されているいろいろな活動内容がモザイクのように示されている。



写真 18 カフェレストランの机と椅子

リサイクル品を集めて使われている、カフェレストランの机と椅子。地域住民から寄付された家具もある。



写真 19 カフェレストランの内観

リサイクルや自作の照明器具、家具什器など色も意匠もバラバラなモノが自然な雰囲気と調和している。活動内容を紹介するパネルなども飾られている。

単独で運営している。スミズーラはそれ以前のアソシエーションとしての活動を発展的に引き継ぎ、2007年に設立された。都市再生と地域開発の分野で活動をしており、多様な事業展開のために、建築分野の専門家やソーシャルワーカー、アーティストなど様々な専門家を取り込んで統合的に構成されている。中にはプロの料理人、宇宙物理学者（バーテン）、元グリーンピースの活動家、経済学や人類学の知識がある人などもある。現代社会の中には、多様な隣人が共存しており、他のアソシエーションと協働することもあるし、自分たちだけでできないときは周囲に助けをもらって、プロジェクトを進めている。

なお、サンサルバリオ地区の家は建物の改修費用を市が出してくれ（その分、自由度は低かった）、建物の賃料もほとんど無償であるが、ヴィア・バルテアは民間の大家から月3,900ユーロの家賃を払って借りている。また、資金調達に民間のファンドを利用したため、それなりに商業的な活動を行って収入を得る必要がある。収入源として最も大きいのはカフェレストランで、次に製パン・製菓子工場である。また、程度の使用料を設定して、ジャズのレッスン場などテナント貸しもしている。

改修・整備費用を安く抑えるため、家具什器はほぼ全てリサイクルで作られており、買ったものはほとんどない。手に入るリサイクル品をボッコ教授などメンバーがコーディネートし、アーティストのマリオ氏が修理したり組み合わせて自作したりして使っている。オープンしたものの椅子が足りないと知った地域の人が家から不要な家具を持ってきてくれたこともあった（写真18）。

3) ヴィア・バルテアでの活動内容

元印刷工場の広い敷地と中庭を囲む建物群には、カフェレストラン、製パン・製菓子工場、工房、レンタルルーム、ホール、音楽教室、コワーキングスペース、シェアキッチンと多様な活動場所が設けられている（図1）。それぞれの場所で一定の収益を上げる必要があるが、無償や低廉な価格で利用できる場所もあり、全体で収支が取れるように運営されている。

①カフェレストラン Social Bar

カフェレストランは、いつも多くの人々に利用されて

おり、最も収益を上げている（写真 19）。ここはカフェではあるが、同時に様々な活動が行われる場所でもある。この施設に来る人々の窓口のような位置づけにもなっている。

カフェのカウンター向かって右奥には工具が展示されており、この工具は地域の人が自由に借りられる（写真 20）。これは、アントネッラ・アンニョリ氏のインタビューで言及された「道具図書館」に通じる取り組みである（→p.58）。水曜日の午後は、直したいものを持ってくれば、敷地内の工房アーティストと一緒に修理修繕してくれる取り組みも行われている。



写真 20 夕方の小公園

カフェレストランの奥の壁に、工具が掛けられている。利用者が借りていくことができる。

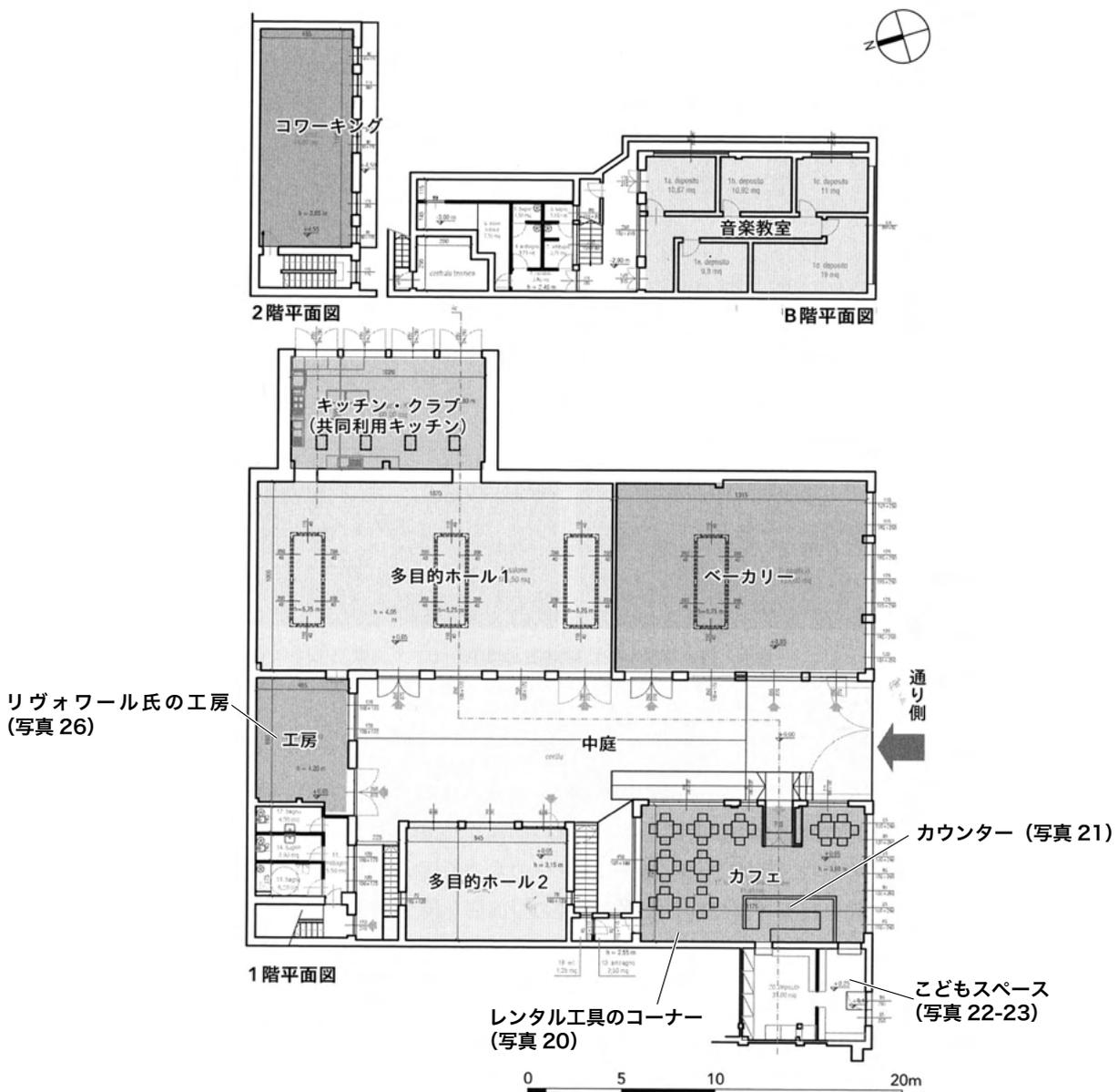


図1 ヴィア・バルテア改修後の平面図

出典：3) 『「地区の家」と「屋根のある広場」 イタリア発・公共建築のつくりかた』小篠隆生・小松尚著、鹿島出版会、2018



写真 21 カフェレストランではパンも販売している
ベーカリーでつくられたパンや菓子が販売されている。
もちろん、イートイン利用せずテイクアウトだけでも
利用可能。



写真 22 こどもスペースの机と椅子
既製品のこども用家具と、手作りの家具が使われている。



カフェのカウンターでは、敷地内の製パン・製菓子工場で作られたパンや焼き菓子も販売されており、テイクアウトでパンを買っていく客も多い（写真 21）。

カウンターに向かって左奥にはこどもの部屋（SPAZIO BAMBI）が設けられている。この部屋は、カウンセリングにも使われている。また、地域のラジオチャンネルもここから放送している。

カフェでは、木曜日の午後は無料で必要な情報を提供するプログラムを行っている。それらは、街での仕事にも関わるような有用な話である。仕事を探している人が相談に来ることもある。これは、アンニョリ氏のインタビューにあった、「職安が図書館にあれば、人目を気にせず気軽に相談に行きやすい」という発想を、地区の家でも行っている取り組みである（→P.51）。実際に、市役所のオフィスだと仕組みや対応が固いが、ここでは市民に近い人たちが話を聞いてくれるため、入りやすく、もらったアドバイスも受け入れやすい。このため、市民にとってはよい相談窓口として機能している。

なお、青少年へのカウンセリングや法的なアドバイスについては、専門的な知識も必要になるため、アポを取ってきてもらう。それ以外は、いつふらっと来てくれてもよく、ここが最初の窓口の役割を果たす。そもそもここにくるのは、高いカウンセリング費用が必要になるような、他の手段にアプローチできない人々である。市役所



写真 23 こどもスペース
左：カフェ側からみたこどもスペースの入り口。
上：こどもスペースの中。低めの天井まで全面的にマリオ氏オリジナルのキャラクターなどの特徴あるペインティングで飾られており、絵本やおもちゃが置かれている。

の相談窓口も行きにくく、行っても支援に繋がってもらうまでに時間がかかる。こういった、その必要がある人たちに対して、相談に行ける先を提供している。ここに来てくれば、お金がかからずに支援を得られる先につながることができる。

②製パン・製菓子工場 Panacea Social Farm

もともとは同様の事業者に貸していたが、いまは直営で営業している。

ここでは、移民を対象とした職業訓練の機会としての事業も行っている。作業を教え、技術の訓練をしながらパンや菓子を作っている。現在の市中のパン屋では一般的に、よく膨らむグルタミンを加えてパンを作っているが、ここでは健康と昔ながらの味をコンセプトに、1950年代まで普通に行われていた、添加剤や改良剤を加えない昔からのレシピと方法でパンを作っている。基本のパンに使われているのは小麦粉、水、塩のみで、小麦粉は未精製のものに限っており、穀物の栄養が損なわれずGI値が低いので健康に良い。都市近郊には、昔のパンを知る高齢者が住んでおり、こうした人々にとっては懐かしいなじみのあるパンでもある。また、グルテンフリーのビスケットのレシピも研究している。

窯の温度を有効活用するため、午前は温度が低くて良いお菓子、午後はクラッカーなどを焼き、夜にパンを焼く。だんだん窯の温度を上げ、最後には260度まで上げて、ピザを焼く。この工場ではパンや菓子を焼いて、カフェで販売をしている。トリノ市内にも、4か所の店舗を持っている。それ以外に、街中で売りたい／提供したいという店舗に出荷している。ここで作っているパンは何日も持つタイプのパンで、それを売りにしている。工場でも、なるべく無駄が出ないように一部はパン粉にしてもう一度使う。

③工房 Carpenteria Soffice

アレッサンドロ・リヴォワール Alessandro Rivoir 氏の工房（写真26）。もともと、氏はボッコ教授と32年来の旧知の仲で、まだ地区の家の活動を始める前に、「専門家」が気に入るような洗練されたグラフィックデザインではなく、人々の心を打つ絵が欲しいと考え、それには氏の作風がぴったりであったので、地域再生のプロジェクト



写真 24 製パン・製菓子工場でのインタビュー



写真 25 製パン・製菓子の様子

移民をスタッフとして雇い、職業訓練を行っている。ここで技術や、就労についての基本的な習慣等を身につけて、市中での一般就労に移行する。



写真 26 アーティストが構える工房



写真 27 敷地内に多数配置されたアート

敷地内には、リヴォワール氏の手になる様々なアートが配置されている。

- 1：バーの看板。他の機能についても同様にアート看板がつくられている。
- 2：カフェレストランの窓辺に下げられたアート。
- 3：水道管をカマキリに見たてて塗装したアート。どこを見てもなにがしかのアートが目に入る。
- 4：掲示板の役割を果たしているメッセージツリー。
- 5：各機能の位置を示す、中庭に置かれたサイン。

クトへの参加を依頼していた。地区の家を、よりフレンドリーな場所にするために、アーティストとして様々な絵を入れたり、オブジェをつくりたりしてくれている。ちょうどそれまで構えていた工房を使えなくなり、新しい場所を探しているところで声をかけられ、この地区の家の改修作業と、その後の施設メンテナンスに参加してくれたら無償でこの工房を提供するという条件で、地区の家の活動に参加するようになった。

リヴォワール氏は、元々は、イラストを描いたりオブジェをつくりたりするアーティストで、家具製作はしておらず、自宅のベッドを作るなど自分の身の回りの家具を製作したことがある程度だった。ここで工房を構えていると、氏のイラストやアートを知らない人々が来て、家具の製作や修理を頼んでくるということがあった。そこで、家具の修理を引き受け、細々とした木工の修理の仕事をもらうようになり、いまや「まちの人気家具職人」である。水曜日にはDIYのワークショップを行っている。工房で彼がつくった作品は、マーケットにも色々と展示されており、大小様々なオブジェが販売されている。(ポッコ教授) 地区の家をどう作るか聞かれるが、結局のところ、人間が一番大事。地区の家の活動を実際に担い、支える人がいないと地区の家は成り立たない。

④レンタルルーム Acquario

様々な活動のために貸しているレンタルルーム（写真28）。室名のAcquarioは水族館の意味で、この部屋ではプロジェクターを使ったビデオの映写などができる。普段は、あまり大きく動き回らなくて良い活動のための場所として使われている。例えば、ヨガやダンス、ピラティスなどの運動や、ワークショップ、会議、小さな上映会などの活動に使用される。また、ウィークエンドにはこどもの誕生会や卒業パーティ、洗礼式、婚約会などの小さなパーティなどである。

また、週に3回は地区改善プロジェクトAxTO（後述）のオフィスとして利用されている。

⑤ホール Salone

200㎡ほどの広さのスペースで、動的活動を含む様々な活動に利用することができる（写真29）。天井からアコーディオンの幕を垂らすことができ、空間を仕切って

使うこともできる。この機構は、自転車を解体した部品でつくられている（写真30）。

⑥音楽教室 Jazz School Torino

地下室を利用して設置された音楽教室。各室にそれぞれ楽器が据えられ、楽器別に練習ができる（写真31）。トリノにはジャズを含む音楽文化が根付いており、著名なジャズ・ミュージシャンも数多く輩出している。こうした文化を背景にしたJSTは、ジャズの普及を目的として社会振興協会（Associazione di promozione sociale (APS)）の枠組みで活動している。専業ミュージシャンとアマチュア、愛好家がともに参加し、ジャズ、ブルース、ソウル、ポップと多彩な音楽を学ぶためのコースやセミナーを行っている。対象者は本当の初心者から上級者まで幅広く設定されている。

またこの場所は、ジャズレッスンの場所としてだけでなく、合唱団のリハーサルやバンドの練習、スタジオセッションやパーティの会場としても部屋を貸している。協会は、この活動を革新的な文化的・社会的実験と捉えており、立場を超えて混じり合う社会活動を通じた、音楽という文化の醸成が実践されている。



写真28 レンタルルーム Acquario

ちょうど、地区改善事業のプロジェクトメンバーが打ち合わせに使っていた。



写真29 ホール

広い活動スペースで、いろいろな使われ方に対応できる。

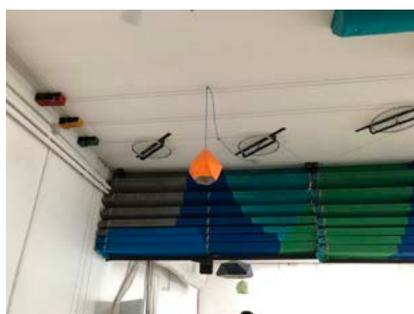


写真30 ホールの機構

解体された自転車の部品を使って滑車を天井と壁面に設置している。チェーンを引っ張るとアコーディオンの幕が上下する仕組み。

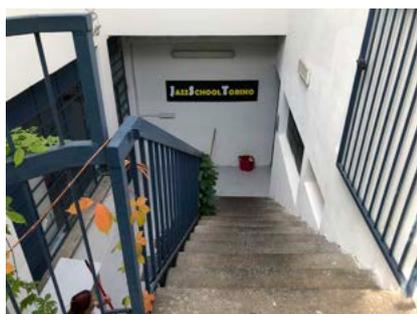


写真31 地下室を利用してつくられた音楽教室

小さい部屋が、それぞれ種類の異なる楽器を練習できるようにセッティングされている。



写真 32 共同利用キッチン

本格的な設備を使うことができる。

⑦共同キッチン Kitchen Club

家庭にあるような使い勝手の良い調理設備から、本格的なガスオーブンやベーカリーマシン、フライヤー等の調理設備を使うことができるシェアキッチン。調理教室を開いたり、友人同士で趣味活動としての調理をしたり、ディナーパーティやチャリティ活動などのための調理活動など、プライベートからソーシャルな活動まで幅広く利用されている。皿やグラス、カトラリなども用意されており、ここでつくった料理を隣接するホールに並べてパーティを開くなどのイベント的な利用も可能である。



写真 33 植栽が置かれ、テントが張られた中庭

上：カフェ入り口から中庭を見る。

中：中庭中央のテント越しに、工房前に溜まる人々。

下：中庭から道路方向を見る。

⑧テラス

道路から大きな門扉越しに続く中庭。搬出入に使われていたためか街路に対して広く構えられた空間が、地域にとっての心地よい溜まりの空間になっている。中央にはテントが置かれ、植栽の鉢植えがいくつも置かれて「抛り所」を感じられる設えである。植栽には、実のなる樹を選んで入れているとのことで、時期には収穫を楽しむことができる。また、そここりにリヴォワール氏が作成した、味のあるアート・オブジェ兼サインが置かれ、親しみや楽しみのある雰囲気を作り出している（写真 33, 34）。

カフェで買ったコーヒーを中庭で飲む、ふらりと立ち寄りおしゃべりを楽しむなどの様々な滞在が期待されている。地域の人々を主な対象としたイベントの会場に



写真 34 テラスに置かれたテーブル

テラスのテーブルは、高さや大きさも様々なものが置かれている。リヴォワール氏による、数字を組み込んだアートペインティングが施されたテーブルもあり、それぞれの特徴を持っている。

もなる。ホールスペースなど、各室との関係を取りやすい空間配置であり、それぞれのスペースでの活動をつなぐ空間ともなっている。

4. ヴィア・バルテアを拠点にした地域改善活動

AxTO（トリノ郊外でのアクション）という団体が、トリノ市によって結成され、大臣評議会の議長の共同出資により、地域のケアと維持、再生を目的として活動している。この活動は、パブリックスペース、住宅、仕事と商業、学校と文化、コミュニティの参加の5つの軸の合計44のアクションで構成されている。これらのアクションは、例えばうまく使われていないこどもの遊び場の改善とプロモーションや住宅問題、就労支援、社会的なイノベーションに関わる仕事（Open INCET）や放課後学校、文化的なプロジェクトなど多岐に渡る。

これらのトリノ市内での様々な地域改善活動が、地図



写真 35 マップを見ながらお話を伺う

レンタルルームを利用して、週に3回のオフィスアワーを持っている。この時間には、参加スタッフが集まってそれぞれのプロジェクトの進捗の報告や、相談を行う。この活動の際には、マップやプロジェクト一覧の掲示が部屋に出されて、様々な課題や話題の共有が可視化されている。

4) AxTO, <<https://www.axto.it/>>

5) プロジェクト一覧, <http://www.comune.torino.it/axto_periferie/progetto_axto/index.shtml>

6) <https://openincet.it/>



写真 36 トリノ市内での活動内容のマップと凡例

軸1 パブリックスペース

-  学校の機能回復と安全性
Ripristino in sicurezza di scuole
-  学校でのアスベスト、人工硝子繊維の再生利用
Manutenzione e recupero delle scuole
-  学校へのアクセスの確保
Accessibilità alle scuole
-  道路・歩道の臨時整備
Manutenzione e manutenzione
-  ドーラ公園の完成と残置スペースの再開発
Ripristino e riqualificazione di spazi residuali
-  地区市場アーケードの特別整備
Manutenzione mercati rionali coperti
-  ルッフィーニ公園体育館の特別整備
Manutenzione del Palazzetto dello Sport di Parco Rumini
-  ルッフィーニ公園のベースブランドの特別整備
Manutenzione di base di Parco Rumini
-  市営プールの臨時整備
Manutenzione piscine comunali
-  個人向けサービスのための施設の特別整備
Accessibilità per servizi alle persone
-  子どもの遊び場のリニューアルと樹木の整備
Manutenzione verde
-  ベラ・ローザンの霊廟の修復
Manutenzione della chiesa
-  バイクシェアリングサービスの拡充
Manutenzione servizi



写真 37 ヴィア・バルテア付近の拡大図

紺色の矢印マークの箇所がヴィア・バルテア。例えばその右上に2カ所の住宅プロジェクト，女性保護センター，等のプロジェクトの展開を読み取ることができる。

軸2 住宅
<ul style="list-style-type: none"> ERP 住宅ユニットでのシステム確保 新しいERPの宿泊施設
軸3 仕事とイノベーション
<ul style="list-style-type: none"> Open INCET (オープンイノベーションセンター) トリノワークセンター PQU - 商業資格プログラム
軸4 学校と文化
<ul style="list-style-type: none"> 校庭の開放 社会的包摂のための教育サービスの強化 アイアンバレー
軸5 コミュニティと参加
<ul style="list-style-type: none"> 技術支援・社会支援 AxTO プロジェクト 近隣の住宅とプロジェクト The Gate Porta Palazzo ファミリーセンター Mirafiori Nord - 宿泊施設 4 Mai più sole (もう1人じゃない)：女性への暴力に共に立ち向かう Informagiovani (若者向けの情報) カメラ：統合されたビデオ監視システム

上にマッピングされている(写真36)。この図のうち、茶色で塗られている地域は、なにかしらの問題がある地域である。このマップは、街の人たちにこんなプロジェクトがある(特に北側のプロジェクト)と伝えるためのもので、街に出て行き各地でそれぞれの場所での活動内容を伝えている。

活動内容は、道路、学校、庭園、家屋の維持管理を伴う物質的レベルとともに、様々な市民団体が関わり、それらの団体をつなぐ組織づくりなどソフト(非物質)面での多様な活動に及ぶ。プロジェクトは2017年から2020年初旬までの予定であった。

業務の枠組みは、1,800万€の政府拠出金と2,700万€の市と県による拠出金をトリノ市がとりまとめ、市の直接業務と外部委託業務に振り分けるといものである。この外務委託業務はコンペで募集されたため、スミズーラを含む3つの団体(教育や移民の受け入れ、放課後学校などを行っている団体)で応募し、トリノ北側エリアの業務を請け負うことになった。南側エリアは別の団体が担当している。

こうした社会的事業でも、新しく建物を建てることまらず計画されない。既存の建物を活かして、まちを再生するということが基本的なスタンスである。

多様な業務が、そのときどきの行政ニーズに即して生じること、またまちのニーズを業務化し、時には行政からの支援を得られる事業として組み立てるという輻輳した方向をもつ組織運営や業務内容の様子をうかがうことができた。



写真 37 食事をいただきながら活動についてのお話を伺う